

省力化と収量増に期待 げんき村でエゴマの直播を実施

げんき村はエゴマの直播（種を直接畑にまくこと）を5月26日に実施しました。これまではエゴマの苗を定植していましたが、先進地の岐阜県や長野県で直播栽培を学び、今年から導入しました。直播により芽が強く育ち、収量の増加が期待されます。げんき村のスタッフらは耕うんを十分に行った畑に手押式の種まき機を使って種をまきました。

代表取締役の藤田力さんは「今後、直播が他の作物へ広がり、町の農業への好影響が大きいのでは」と話しました。



▲種まきから約1週間後、無事に芽が出ました

いざというとき、命を守るように 防災セミナー「災害への備え」開催



▲気象警報の変更についても説明されました
(p.17に詳細を掲載しています)

只見町防災セミナー「災害への備え」（只見町主催）が5月30日、只見公民館で開催され、町民ら32名が参加しました。講師を務めた日本赤十字社福島県支部の松本琢也さんが地震や水害などの実例を紹介し、家具の転倒防止や避難所への移動時に必要なものなど、災害への対策や備えについて説明しました。参加者は講演のほか、会場に設置されたテントや簡易トイレなどの防災備蓄品に触れ、防災の意識を高めました。

今後は9月1日の防災の日に、只見公民館で災害図上訓練を実施する予定です。

シャクヤクの地産地消と関係人口の増加に寄与 ボランティアがシャクヤクの花摘み

漢方薬用に栽培しているシャクヤクの花摘み作業（有限責任事業組合クラウドゥ只見主催）が5月30日～6月20日までの土日に行われました。クラウドゥ只見は安全で良質な生薬原料を安定供給するとともに、まちづくりへの貢献を目指し活動しています。県内外から集まったボランティアのべ約150人が作業しました。

シャクヤクは花が咲くと漢方薬となる根が生長しなくなるため、花摘みの作業は欠かせません。摘んだ花はハーブティーや粉末にしてソフトクリームにふりかけるなどして活用します。秋には根の掘り起こしを予定しています。



▲参加者は只見町の景色を楽しみつつ作業しました

奥会津の魅力ある素材を活かす

「売れるモノづくりを考える会」開催

「売れるモノづくりを考える会」（只見川電源流域振興協議会主催）が6月10日、只見公民館で開催されました。NPO法人「素材広場」の横田純子理事長が講師を務め、奥会津の味や素材を活かした商品づくりの開発を呼びかけました。また、株式会社そらの吉田雅恵社長は密閉性が高く、味が保たれるアルミ製パッケージを紹介しました。

参加した町内外の食品加工事業者らは、新商品の試作品作製に向け意見を交わしました。今後2回にわたり試作品の検討を行い、9月から11月に会津若松市の鶴ヶ城会館でテスト販売する予定です。



▲「市場の流行は小柄でかわいいパッケージ」と説明する横田さん

食生活を通じた健康増進に尽力

酒井さん 県食改推進連絡協議会会長表彰 受賞



▲酒井美恵子さん(左2人目)と只見町ヘルスメイトの皆さん

県食生活改善推進連絡協議会の総会が6月10日、いわき市で開催され、酒井美恵子さん（坂田）が「福島県食生活改善推進連絡協議会会長表彰」を受賞しました。

酒井さんは只見町食生活改善推進員会の会員として、町の健康づくり活動に20年以上にわたり尽力され、平成26年から2期4年、理事を務められました。今回はそれらの活動が認められ、受賞となりました。おめでとうございます。

日頃の感謝の気持ちを行動に

商工会青年部 只見地区で草刈りを実施

只見町商工会青年部は6月12日に只見地区内で草刈りを実施しました。全国商工会青年部連合会では、6月10日の「商工会の日」を中心に、地域貢献活動などを通じて感謝の気持ちを形にする全国統一事業「“絆”感謝運動」に取り組んでいます。今年度、只見町商工会青年部では地域緑化事業を計画しました。

部員らは只見駅周辺の広場、三石神社の参道の草刈りを行い、地域の景観維持に取り組みました。



▲地元の環境整備に汗を流しました

手作りパンフレットで只見町の魅力をアピール 町内3小学校 修学旅行で柏市を訪問

町内3小学校の6年生19人は6月17日から19日にかけて関東方面に修学旅行に行き、17日には、ふるさと交流都市の柏市を訪れました。修学旅行で柏市を訪れるのは初めてです。子どもたちは道の駅しょうなんで手作りの観光パンフレット等を来場者に配り、只見町をPRしました。

また、毎年交換給食事業を行っている市内のブルーベリー農家を訪れ、育て方や品種の説明を聞き、食べ比べ体験をしました。最後にJリーグ柏レイソルのホームスタジアムの三協フロンティア柏スタジアムを見学し、特別に許可され芝生のピッチ内に入り、走り回って柏市を満喫しました。

▶パンフレットを渡して町を紹介する子どもたち



▲特別にロイヤルシートにも入らせてもらいました

二軒在家地区の史跡を巡る

「明和ふるさとハイキングin二軒在家」開催



▲ハイキングを楽しんだ参加者の皆さん

「第10回明和ふるさとハイキングin二軒在家」(明和自治振興会、明和公民館主催)が6月20日に開催され、町民18人が参加しました。

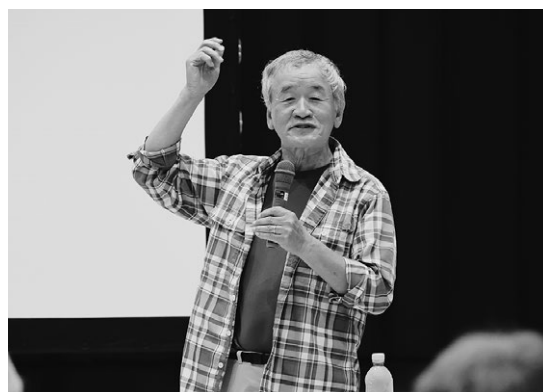
参加者は二軒在家地区にある愛宕神社や熊野神社、砂防ダムなどを巡る約2.5kmのコースを歩き、案内人の矢沢明伸さん(二軒在家)に神社の由来や過去の豪雨災害について解説いただきました。史跡にまつわるクイズも出題され、参加者は地域について学ぶ機会となりました。

ブナセンター講座

「鳥が作った自然界ー花・虫・鳥の共進化ー」開催

「鳥が作った自然界ー花・虫・鳥の共進化ー」(只見町ブナセンター主催)が6月20日に只見公民館で開催されました。

立教大学名誉教授・日本野鳥の会会長の上田恵介博士が講師を務めました。講座では鳥や虫など花粉を運ぶ「送粉者」の見える色相に対応するように花の色が変わっていったことや、生物環境に適応するために花や樹幹に擬態する虫の進化など、生き物の生存戦略について解説されました。また、翌21日には上田博士と新田沢周辺で野鳥観察会が行われました。

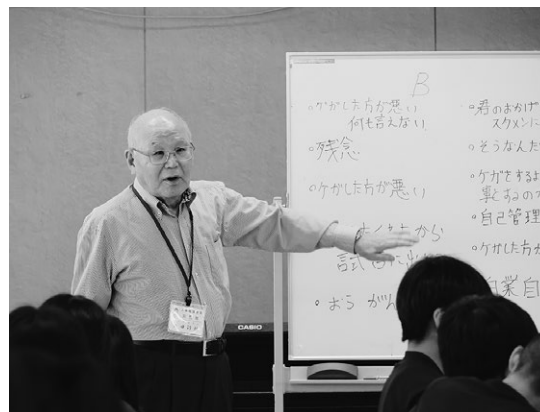


▲「進化は生き物同士の駆け引き」と話す上田博士

身近な事例から人権を考える 「人権教室」開催

只見中学校全校生を対象に「人権教室」が6月22日に行われました。只見町人権擁護委員の角田行雄さん、渡部早苗さんが講師を務めました。

生徒らは部活動でケガをして大会に出られない仲間がいたのような声かけをするかを考え、発表しました。角田さんは自分が言われたらどう思うかを問いかけ、「自分が弱い立場になった時に、人権を大事にして立ち向かってほしい」と伝えました。



▲「順調なときは見えてこない。弱くなった時に人権の大切さに気づく」と角田さん

田んぼの役割や生きものを学ぶ 「生きもの調査」開催



▲興味津々で生き物を眺める子どもたち

「生きもの調査」（福島県南会津農林事務所主催）が6月23日に朝日小学校で行われました。町内3小学校の子どもたちが参加し、講師はアクアマリンふくしまの春本宜範さんが務めました。春本さんは素掘りの用水路が減り生き物が少なくなっていることを説明し、「今の田んぼの様子を知ることが大切」と話しました。

その後、子どもたちは町内で捕れたドジョウやトノサマガエルなどの生き物やアクアマリンふくしまから連れてきたタガメやゲンゴロウを観察しました。

ブナりん健康ポイント

100ポイント到達おめでとうございます

齋藤昌一郎さん・千治さんと栗木喜一さんが「ブナりん健康ポイント制度」で100ポイントを達成しました。これからもサロンや健康講座に参加して、健康に元気にご活動ください。

「ブナりん健康ポイント制度」は、介護予防教室や、健康講座、地域づくりサロンなどに参加するとポイントをもらうことができ、ポイント数に応じて健康グッズなどと交換できる制度です。

▶ 齋藤昌一郎さんと千治さん（亀岡）
お二人とも人と話すことが好きで、サロンで色々な人と交流し、楽しく過ごしています。



▶ 栗木喜一さん（小川）
元気の秘訣は、家の仕事を少しして身体を動かすことだそうです。

